

大分県長期漁海況予報

〔平成 22(2010)年 1 月～6 月までの海水温・漁模様の見通し〕

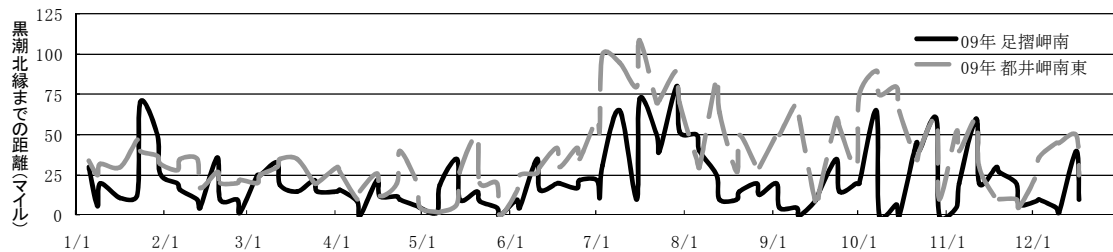


大分県農林水産研究センター水産試験場 879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦 194-6
Phone 0972-32-2155 Fax. 0972-32-2156 <http://www.mfs.pref.oita.jp>

海況経過<平成 21 年 8～12 月>

■黒潮

8 月～11 月における九州南東沖(都井岬～足摺岬沖)の黒潮は、小冷水渦(用語解説①)の東進に伴い離接岸を繰り返しました。12 月現在も離接岸を繰り返しています(図 1)。



足摺岬：接岸 0～25 マイル やや離岸 25～45 マイル 都井岬：接岸 0～30 マイル やや離岸 30～50 マイル

図 1 足摺岬南及び都井岬南東方向の黒潮北縁までの距離(南西東海沿岸海況速報より)

■水温

豊後水道西部海域の水温(0～75m層)は、8 月は調査船の定期ドッグのため欠測、9 月と10 月は「平年並み」、11 月と12 月は「やや高め」で推移しました(図2)。

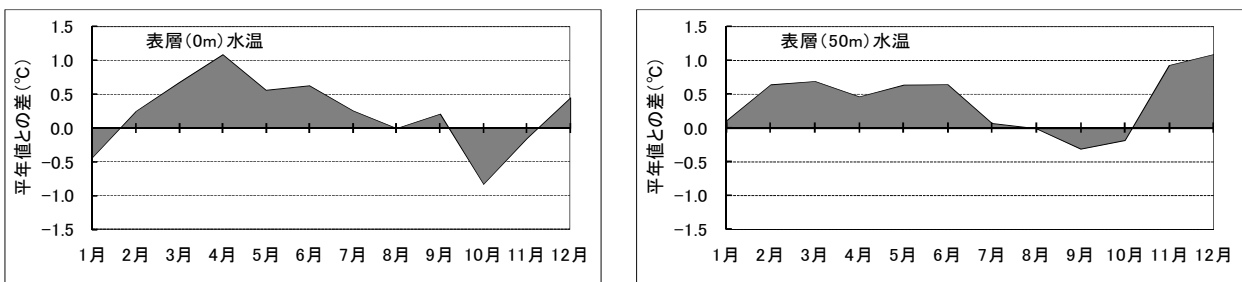


図2 豊後水道西部海域における水温の平年差(左図：表層水温、右図：50m層水温)

■塩分

豊後水道西部海域の塩分(0～75m層)は、8 月は調査船の定期ドッグのため欠測、9 月は「平年並み」、10 月は「やや高め」、11 月と12 月は「平年並み」でした(図3)。

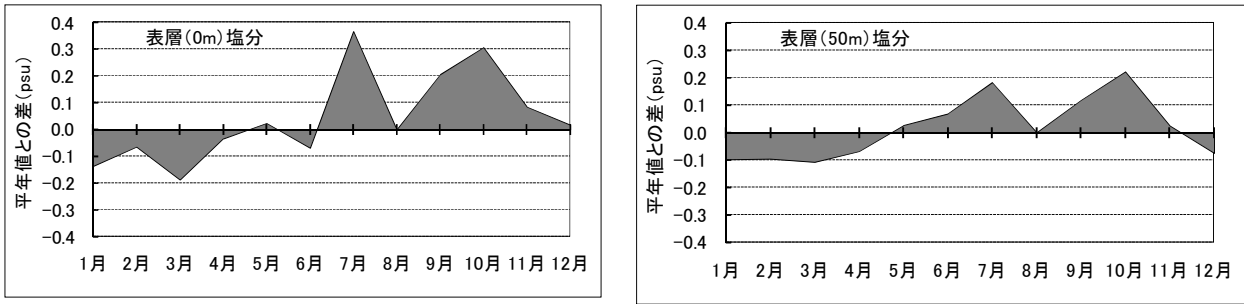


図3 豊後水道西部海域における塩分の平年差（左図：表層塩分、右図：50m層塩分）

今後の海況の見通し＜平成 22 年 1～6 月＞

■黒潮

黒潮は、都井岬沖では 1 月に小蛇行が形成され、5 月まで離岸傾向となり、足摺岬沖では 1～4 月は小規模な離接岸を繰り返すでしょう。5～6 月には都井岬沖の小蛇行の東進に伴い、足摺沖で離岸するでしょう。

■沿岸水温

「平年並み」～「やや高め」で推移するでしょう。

■予測の説明と根拠

- ・黒潮流路予測は平成 21 年度第 2 回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁海況予報(中央水産研究所及び関係府県:2009)に従いました。
- ・沿岸水温は気温の影響を強く受けると考えられ、福岡管区気象台の「九州北部地方3ヶ月予報」では、1～2月の平均気温は「平年並みまたは高い確率ともに40%」と予測しています。

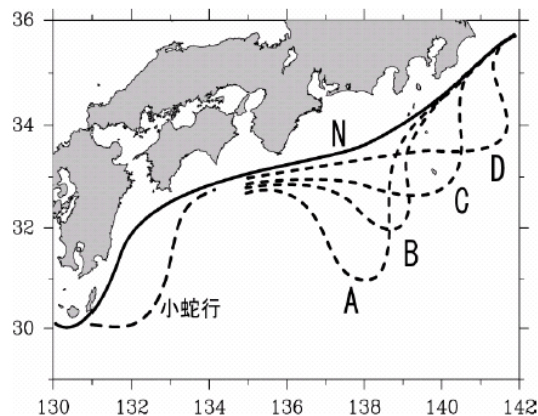


図 4 黒潮流型の分類

※上図は平成 21 年度第 2 回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁海況予報(水産庁プレスリリース資料)より引用

■マイワシ

2009年8～11月の漁況経過

2009年8～11月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるマイワシの漁獲量は、8月に1.6トン、9月に0.1トン、10月に0.1トン、11月には漁獲はなく計1.8トンでした。前年比6%、平年比^(用語解説②)0.1%と、前年及び平年を大きく下回っていました。

漁獲の主体は、8月に佐伯湾で漁獲された被鱗体長^(用語解説③)12.0～12.4cmにモード^(用語解説④)をもつ0歳魚でした。

なお、近隣海域^(用語解説⑤)でも不漁となっています。

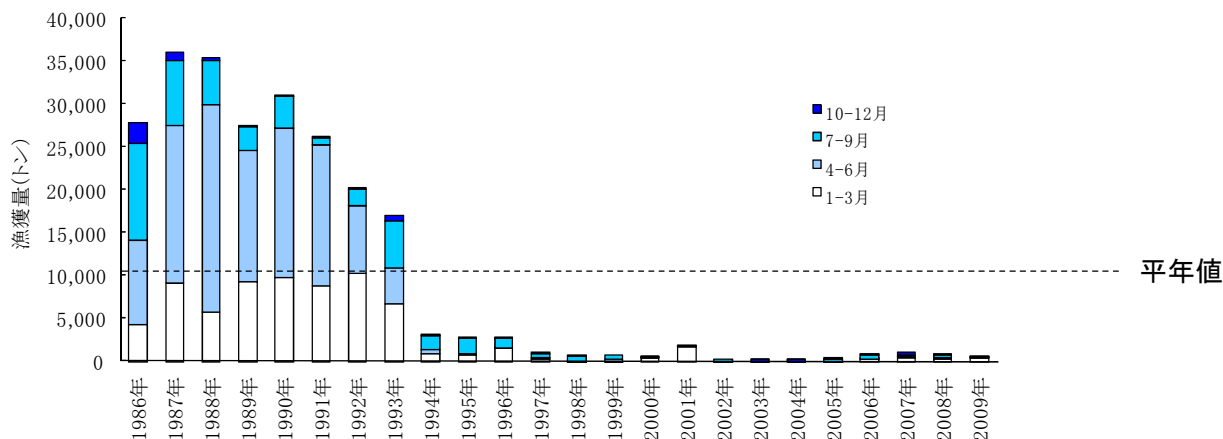


図2 マイワシのまき網漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<平成22年1～6月>



来遊水準:

豊後水道南部海域への来遊量は依然として低水準で、前年を下回るでしょう。

漁獲対象年級群及び体長:

1～3月は被鱗体長19cm前後の1歳魚(2009年生まれ)が主体で、4～6月から被鱗体長7～12cm前後の0歳魚(2010年生まれ)が漁獲対象となるでしょう。

近年の調査結果によれば、1～3月に1歳魚、4～6月に0歳魚が漁獲され、1歳魚の漁獲量が大半を占める傾向にあります。

【説明】

予測期間中の漁獲主体となる1歳魚(2009年生まれ)の資源水準は、例年0歳魚が漁獲主体となる4～11月のまき網漁獲量が前年を大きく下回った(前年比5%)こと、太平洋沿岸の産卵量が平年を大きく下回った(平年比9%)こと、本県海域の小羽銘柄(幼魚)の漁獲量が前年を下回ったこと、シラス漁でのマイワシシラス(稚魚)の混獲が前年並みであることから、前年1歳魚(2008年生まれ)を下回ると考えられます。

また、4～6月の漁獲主体となる0歳魚(2010年級群)の来遊量については、現段階では不明ですが、親魚が少ないことから1980年代のような高水準は考えにくいでしょう。

以上のことから判断して、来遊水準は前年を下回ると予測しています。

■カタクチイワシ(成魚)

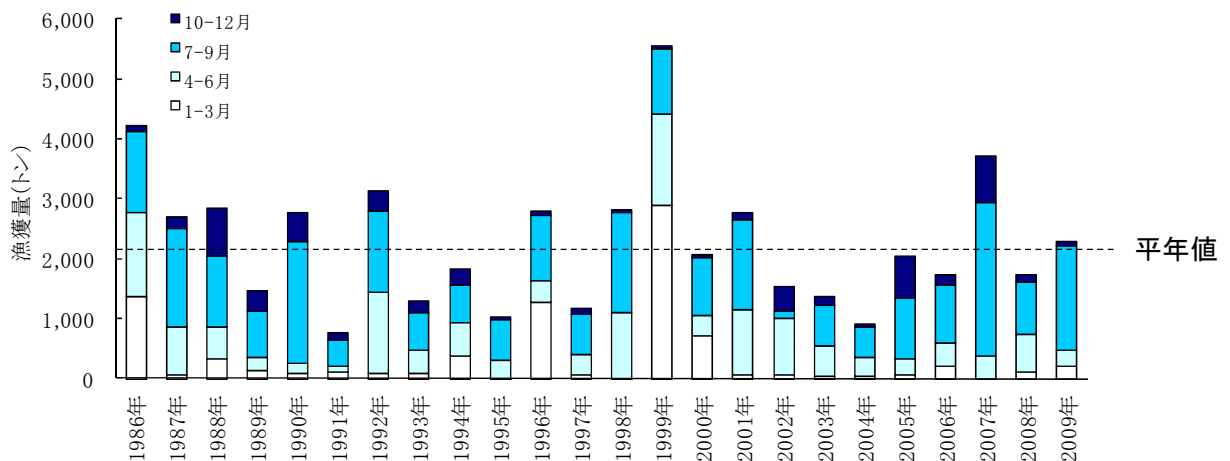
□2009年8～11月の漁況経過

2009年8～11月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるカタクチイワシの漁獲量は、8月に955トン、9月に129トン、10月に90トン、11月に2トンの計1,176トンでした。前年比353%、平年比158%と、前年・平年を上回る好漁となりました。

漁獲の主体は、8～9月が被鱗体長10.0～10.4cmにモードをもつ1歳魚(2008年生まれ)が豊後水道を主体に佐伯湾でも漁獲されていました。

なお、近隣海域でも好漁となっています。

図3 カタクチイワシのまき網漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)



今後の見通し<平成22年1～6月>

来遊水準:

豊後水道南部海域への来遊量は、前年並みか前年を上回るでしょう。



漁獲対象年級群及び体長:

1～5月は7～12cm前後の1歳魚(2009年生まれ)が主体で、6月以降は6cm前後の0歳魚(2010年生まれ)が1歳魚に混じるでしょう。

1～5月は1歳魚が僅かに漁獲され、6月になると1歳魚に0歳魚が混じり、漁獲量が急増する傾向にあります。

【説明】

予測期間中の漁獲主体となる1歳魚(2009年生まれ)の資源水準は、太平洋沿岸の産卵量が前年を上回っていたものの、本県海域におけるシラス漁での漁獲量が前年並み～低め、まき網での小～中羽漁が不漁であったことから、前年1歳魚(2008年生まれ)並みか前年を上回ると考えられます。

以上のことから判断して、来遊水準は前年並みか前年を上回ると予測しています。

■ウルメイワシ

□2009年8～11月の漁況経過

2009年8～11月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるウルメイワシの漁獲量は、8月に481トン、9月に312トン、10月に532トン、11月に4トンの計1,329トンでした。前年比287%、平年比423%と、前年・平年を大きく上回る漁となりました。

8月は被鱗体長9.5～9.9cmにモードをもつ0歳魚を主体とする魚群が豊後水道中部～南部で漁獲され、9月は12.0～12.4cmにモードをもつ0歳魚を主体とする魚群が豊後水道中部～南部で漁獲されました。

なお、近隣海域でも概ね好漁となっており、愛媛県では1980年以降で最も多い漁獲量となっています。

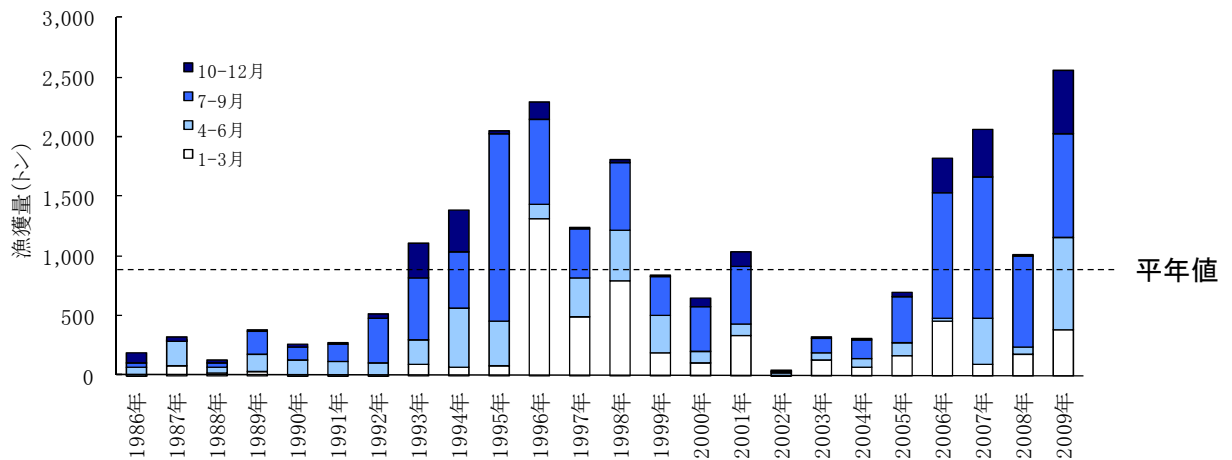


図5 ウルメイワシのまき網漁獲量 (鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<平成22年1～6月>



来遊水準:

豊後水道南部海域への来遊量は、前年並みか前年を上回るでしょう。

漁獲対象年級群及び体長、漁期、漁場:

1～3月は被鱗体長20cm前後の1歳魚(2009年生まれ)が主体で、4～6月は10年級群(5～12cm前後)の0歳(2010年生まれ)が漁獲対象となるでしょう。

1～3月に1歳魚が、4～6月に0歳魚が漁獲され、1歳魚の漁獲量が大半を占める傾向にあります。

【説明】

漁獲主体となる1歳魚(2009年生まれ)の資源水準は、太平洋沿岸での産卵量が前年並み(前年比111%)、シラス漁でのウルメシラス(稚魚)の混獲が前年よりも多かったこと、本県海域で小羽銘柄(幼魚)期のまき網漁獲量が前年を下回ったことから、前年1歳魚(2008年生まれ)並みか前年を上回ると考えられます。

以上のことから判断して、来遊水準は前年並みか前年を上回ると予測しています。

■マアジ

□2009年8～11月の漁況経過

2009年8～11月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるマアジの漁獲量は、8月に96トン、9月に140トン、10月に123トン、11月に55トンの計414トンでした。前年比32%、平年比27%と、前年・平年を下回る漁となりました。

9月は尾叉長^(用語解説⑥)15.0～15.4cmにモードをもつ0歳魚と20.0～20.4cmにモードをもつ1歳魚が豊後水道中部～南部で漁獲されました。

なお、近隣海域でも不漁となっています。

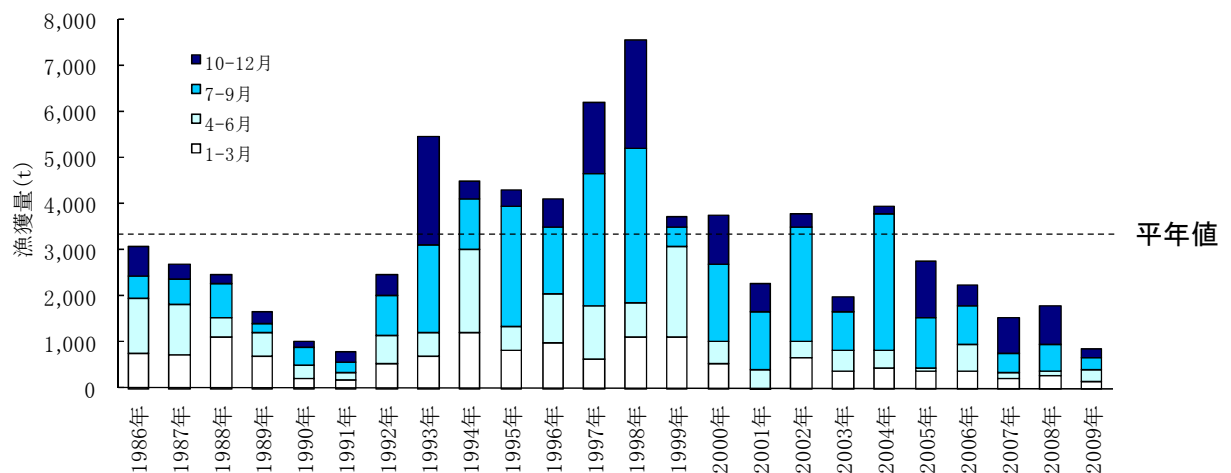


図6 マアジのまき網漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<平成22年1～6月>

来遊水準:

豊後水道南部海域への来遊量は、前年を下回るでしょう。



漁獲対象年級群及び体長:

15～20 cm前後の1歳魚(2009年生まれ)が漁獲の主体で、2歳魚以上(20 cm以上)が混じるでしょう。5月以降に0歳魚(2010年生まれ)が混じるでしょう。

【説明】

1～6月の漁獲主体となる1歳魚(2009年生まれ)の資源水準は、本県海域での定置網による幼魚期の漁獲量が低調で前年を下回り、その後の漁獲も低調で推移していることから、前年0歳魚(2008年生まれ)を下回ると考えられます。

以上のことから判断して、来遊水準は前年を下回る程度と予測しています。

■サバ類

□2009年8～11月の漁況経過

2009年8～11月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるサバ類の漁獲量は、8月に6トン、9月に366トン、10月に777トン、11月に381トンの計1530トンでした。前年比56%、平年比59%と、前年・平年を下回る漁となりました。

10月は尾叉長24.0～24.4cmにモードをもつ0歳魚のゴマサバが豊後水道で漁獲されました。

近隣海域では、ゴマサバ主体に平年並みの漁獲でした。

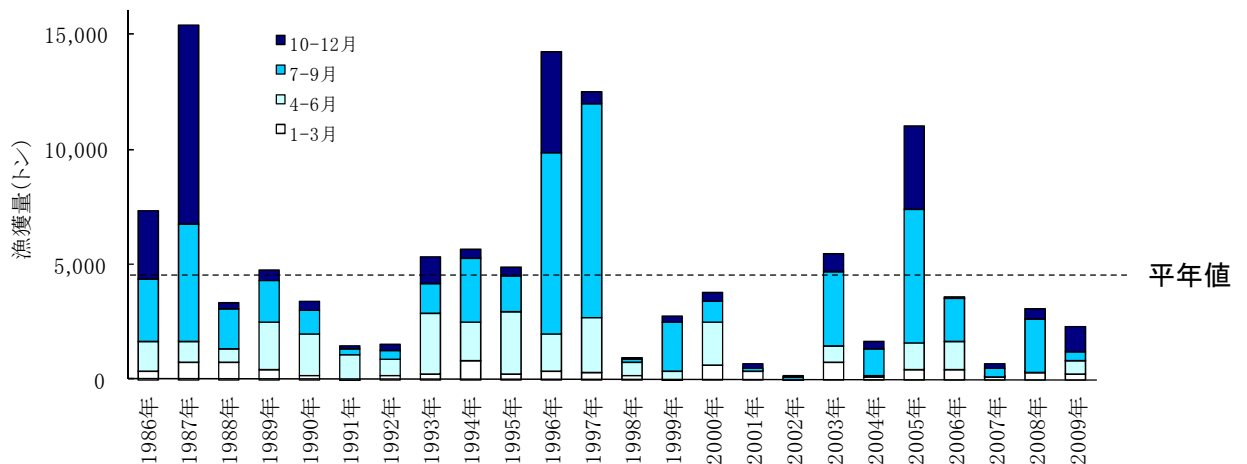


図7 サバ類 (マサバ・ゴマサバ) のまき網漁獲量 (鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<平成22年1～6月>

来遊水準:

豊後水道南部海域への来遊量は、ゴマサバ主体に前年を下回るでしょう。



漁獲対象年級群及び体長:

1～3月はゴマサバ2歳魚(2008年生まれ)主体に、3歳魚以上の大型のゴマサバが混じる。4月以降は1～2歳魚の他、内湾域で0歳魚(2010年生まれ)が加わるでしょう。

1～5月は25～35cm(1歳以上)のゴマサバが僅かに漁獲されるのみで、6月以降に1～2歳魚が本格的に来遊し、漁獲量が急増する傾向にあります。

【説明】

予測期間中の漁獲主体となる2歳魚(2008年生まれ)の漁況経過をみると、例年1～2歳魚が漁獲主体となる6～9月のまき網漁獲量は前年を大きく下回っています(16%)。これは、現在まで2008年級群がほとんど漁獲されておらず資源水準はかなり低いためと考えられます。また、3歳(2007年生まれ)と4歳(2006年生まれ)は現在までほとんど漁獲されておらず、大規模な来遊は期待できないでしょう。

以上のことから判断して、来遊水準はゴマサバ主体に前年を下回る程度と予測しています。

その他

■ 予測の根拠および参考資料

平成21年度第2回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁海況予報(中央水産研究所及び関係府県:2009)

■ 用語解説

- ①小冷水渦:黒潮本流の北側に生じる反時計回りの渦。
- ②平年比:1986～2008年までの比
- ③被鱗体長:体の前端から、尾柄の鱗で覆われている部分の後端までの直線距離。
- ④モード:度数の最も多い数値、階級値。
- ⑤近隣海域:ここでは、3県(宮崎県・愛媛県・高知県)の海域とする。
- ⑥尾叉長:体の前端から、尾びれの湾入部内縁中央(くびれている部分)までの直線距離。

■ 問い合わせ先

この予報に関する問い合わせ先は、大分県農林水産研究センター水産試験場 栽培資源担当まで

〒879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦194-6

電話:0972-32-2155

FAX:0972-32-2156